



# 第65回全道造形教育研究大会 in 函館・渡島特集

<目次>	
・大会風景 .....	1〈表紙〉
・大会実行委員長挨拶 .....	2
・大会を振り返って .....	3
・大会スナップ .....	4~5
・大会参加者の声 .....	6
・28年札幌大会のお知らせ .....	7
・地区サークル情報など .....	8



# 北海道 造形教育 連盟報

No.141 2015.12.1発行  
 発行 北海道造形教育連盟  
 会長 三井 哲 (札幌市立北白石小学校長)  
 事務局長 阿部 時彦 (札幌市立定山溪中学校長)  
 事務局 札幌市立定山溪中学校  
 〒061-2303  
 札幌市南区定山溪温泉西1丁目31番地  
 TEL(011)598-2460・FAX(011)598-4576



# 第65回全道造形教育研究大会 函館・渡島大会研究を終えて

第65回全道造形教育研究大会 函館・渡島大会  
実行委員長 土谷 敬  
(函館市立湯川小学校長)

第65回全道造形教育研究大会函館・渡島大会を、御来賓の渡島教育局長辻俊行様、函館市教育委員会教育長山本真也様はじめ、道外、全道各地から造形教育に情熱を傾けておられる先生方をお迎えし、盛会のうちに終了することが出来ましたことに心から感謝申し上げますとともに大会運営者としてたいへん嬉しく思います。

さて、本大会の開催に向け、北海道造形教育連盟の研究主題を受け「夢・つくる・人～未来はぐくむ造形教育～」のテーマの下、組織的、計画的に造形教育の在り方について究明すべく授業研究や実技研修、講演等をとおして研究・研鑽を深めてきました。

ちょうど現行の学習指導要領が全面实施されてからの折り返し地点として趣旨の理解を図る段階から、それらを踏まえた授業実践を一層深化させる時期に入っています。したがって、本大会においては、奇をてらった取組の公開ではなく、子どもの学びを基軸とした授業の在り方、つまりは確かな資質、能力を育成する視点を重視した指導の充実のため、改めて図画工作、美術科の改善の基本方針に立ち返った実践交流を重ねていくことをねらいとした研究大会にすることを目指しました。

そのため、「子どもの夢の多面的な発想・構想・創造を語る（素直な造形～子どもの気持ち）」、「授業づくりを研修・研鑽する（育む造形～学びの気持ち）」、「地域や人、他分野とのつながり（ひろがる造形～つながる気持ち）」の3つの実践ポイントを設定し、それぞれの授業づくりに努めてきました。また、全道の子どもの夢が書かれたリーフによる造形活動「北海道夢ツリープロジェクト」も地域、校種を越えたチーム北海道の共

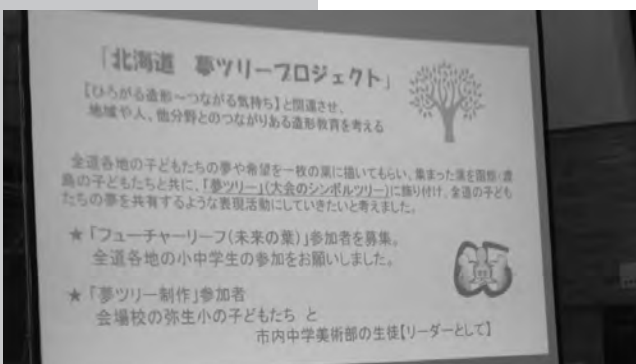
同の取組として造形教育を考える新たな視点になったのではないかと考えます。

さらに、環太平洋大学次世代教育学部教授 村上尚徳先生のご講演「感性や創造性をはぐくむ造形教育」も、先に述べた大会の趣旨に沿う、わかりやすいお話で改めて現行の学習指導要領の趣旨やそこで使われていることばの確認ができ、たくさんの語彙を持ってその後の分科会協議に臨むことが出来たのではないかと考えています。どの授業会場も分科会会場もあふれんばかりの先生方で講演講師、助言の皆様からも子どもたちが考える場面を位置づけたよい授業ばかりであったとおことばを頂きました。

大会行例の地区交流会もこれまでのうちで最高の出席を得て、各地区の実践交流、連盟餅つき、次期開催地への連盟旗の引き継ぎと和やかかつ愉快的な北海道ならではのひとときを過ごすことが出来ました。

本大会にご参集の皆様には、北の造形教育クリエイターとして共に未来を担う子どもたちを育てる視点で公開保育・授業、実践発表をもとに協議、交流を図り、実りある研究大会につくり上げて下さったことに心から感謝を申し上げます。

終わりになりますが、本大会の開催にあたり、ご後援頂きました北海道教育庁渡島教育局、函館市教育委員会、函館市幼稚園・子ども園協会をはじめ、ご講演、ご助言を賜りました皆様には感謝を申し上げますとともに、各般にわたりご支援、ご協力頂きました関係各位に心から御礼申し上げ、大会終了のご挨拶とさせていただきます。





## 全道造形教育研究大会 函館・渡島大会を終えて 感謝！感謝！感謝！

第65回全道造形教育研究大会 函館・渡島大会  
研究部長 佐々木 善 憲  
(函館市立深堀小学校)

7月29日（水）函館・渡島大会に、全道各地はもとより、東北方面からも参加していただき、大変ありがとうございました。大会・研究主題「夢・つくる・人～未来はぐくむ造形教育～」のもと、皆さんの活発な討議、貴重なご意見をいただき、図工美術による造形教育について改めて考えることができた感謝しております。

本大会では、幼・小・中の5つの授業と、北海道夢ツリープロジェクト（アートプロジェクト）の1つを公開し、6つの分科会において、参加者との実践交流、そして造形教育への考えや理解を深めることができました。授業、提言、講演を通じて、私たちが目指す大会へのステップを踏むことができました。

特に、初めて取り組んだ全道規模での夢ツリープロジェクトの試みでは、37校の諸先生方、またこれに関わったフューチャーリーフに参加してくれた児童・生徒数も2300名を超えるものとなり、全道の皆さんの温かいご支援・ご協力を得たことは、今大会を含め、今後の大会に向けての大きな力であり、つながりとなったと言える



のではないのでしょうか。

また、分科会では、助言者の皆さんからのご助言、全道各地からの提言もいただき、今大会の研究主題を活性化させる内容となりました。意義ある討議ができ、函館・渡島の先生方にとっても貴重な学習・研修・研鑽の場となりました。ありがとうございました。

造形教育を通じた北海道のつながりとひろがり、北海道のクリエイターである子どもたちと先生方の今後の活躍と発展性を益々感じることができた大会でした。



## 「カラフルねんどで」(立体に表す) (小1)

石岡 寿子・船橋 恭二 (七飯町立七重小学校)

○三原色の色つき粘土を用いて、混色の発見、新たな素材との出会いと発見、材料と技法の出会いを狙った造形遊びに主眼を置いた授業であった。

ICTを活用し、子どものつぶやきを大切に、指導者が故意に失敗して見せるなど、場の設定を大切に。



## 「想像の塔」(小3)

赤坂 巖男 (函館市立青柳小学校)

○ペットボトルと紙粘土を用いて、自分がイメージした想像の塔を素材の組み合わせを考え製作する授業であった。題材設定では、いくつかの題材をヒントに、素材の工夫、鑑賞カードの工夫をして授業作りに取り組んだ。作品の中に作者本人を登場させることで、イメージを膨らませ、表現との関わりを意識させることができた。



# 第65回全道造形教育研究大会 函館・渡島大会

### 大会研究主題

## 「夢・つくる・人～未来はぐくむ造形教育～」

### 《素直な造形～子どもの気持ち》

- 子どもの夢の多面的な発想・構想・創造を語ろう。
- ・子どもの気持ち、夢にそった造形教育とは、どのようなものかを発想・構想・表現・鑑賞などから多面的に考える。

### 《育む造形～学びの気持ち》

- 授業づくりを研修・研鑽しよう
- ・教師の学びと授業づくりを軸として、教科書題材や教材開発などの実践上の課題や工夫、造形指導や授業力の高め方などについて考える。

### 《ひろがる造形～つながる気持ち》

- 地域や人、他分野とのつながりを考えよう
- ・北海道のネットワーク、地域の人々や社会との出会い、他分野とのコラボレーションなど、ひろがり・つながりの造形を考える。

## 「花火が ドン！」(年長)

清水 里奈・白幡 久姫 (函館短期大学付属幼稚園)

○園児達が体験した実際の花火の様子をもとにした授業であった。制作を通じて、互いに助け合いながら、気づき、発想し、子ども一人一人の個性が発揮されていた。子どもの表現には、素材の準備をはじめとして、教師の環境構成が大きく関わっていることを改めて気付かされる内容であった。



## 「つながる青函、伝えよう魅力」(中2)

木村 麻岐 (函館市立桐花中学校)

○青函のつながりをテーマとし、その魅力を造形的な表現で伝える方法を題材とした。地域に目を向けた自分達の発想やイメージの豊かさを、言語活動により見つめて、交流し合う授業であった。生徒が設定するテーマが総合的な学習の色合いとなる懸念があるので、共通事項、表現などの美術の指導にしっかりと関連させることの重要性を再確認した。



## 「しかべ・アース・アート～人がつながるアートの空間」(中3)

藤本 大介 (鹿部町立鹿部中学校)

○地域を素材として、「町の人たちが集い楽しめる公園」を題材化し、美術のひろがりを実感させる授業であった。地元への愛着をもたせ、行政との連携を図りながら、生徒間で鑑賞、評価することで、美術の果たす役割を実感させることができた。



# 大会参加者の声♪

## 第65回全道造形教育研究大会函館・渡島大会

### 幼稚園や小学校の授業実践から学んで

札幌市立南が丘中学校 越智 あずさ  
たくさんの先生方の実践を知ることができ、とても勉強になりました。

これまで見たことがなかった幼稚園児や小学生の活動を見ることができたので面白かったです。

授業では、それぞれの年代での題材への関わり方の違いがよくわかり、どの年代の子どもたちにとっても造形活動がとても大切なものであると改めて実感しました。

もっと勉強をしてもっと面白い授業を作っていかなければという反省とともに、今後の励みになりました。

### 『北海道夢ツリープロジェクト』をみて

函館市立深堀中学校 佐々木 壮一  
約3ヶ月、美術部の生徒と夢ツリープロジェクトの準備をしてきました。段ボールで枝を作る際には、普段習っていない小学校の先生から指導を受け、緊張感と「大きなプロジェクトなんだ」というワクワク感が子どもたちの中で芽生えていました。大会当日の授業では、2300枚という全道から集められたフューチャーリーフを、小学生と協力して貼り付けることができました。全道の夢が一つの形となった作品を見て、子どもたちからは、自然に笑顔がこぼれ、忘れられない思い出となりました。

### 「カラフルねんど」をみて

札幌市立稲積小学校 三浦 真奈美  
色同士を混ぜて工夫したり、握った形から発想を広げたりする図工大好きな姿。「先生、見て見て!」「できたよ!」と先生に認めてもらうことで安心しながらつくる、先生大好きな姿。「ちがう緑をつくるんだ〜。」「それどうやったの?」と話し合いながらつくる、友達大好きな姿。赤青黄のカラフルな粘土が見事に素敵な姿を引き出していました。

### 「しかべ・アース・アート」～人がつながるアートの空間～をみて

日高町立富川中学校 牧野 裕子  
作品を鑑賞する生徒たちが、互いの作品の空間に入り込んで楽しんでるのが素敵でした。生徒は、仲間が作った公園の中に自分のミニチュア人形を置いたり、鑑賞会で公園利用者の目線カメラを使って発表したりしていました。それが、自分たちで作り出した架空の空間に、実際に入り込んで楽しむための仕掛けになっていたのだと思います。自分が生み出した作品で仲間や地域とつながる、授業づくりのヒントをいただきました。

### 「しかべ・アース・アート」～人がつながるアートの空間～をみて

士別市立朝日中学校 近藤 実有紀  
どれも生徒の思いが込められた素晴らしい公園（エリア）でした。  
授業の最終段階で自分たちの公園（エリア）と他グループの公園（エリア）が繋がった時には、全体像を見た生徒たちの表情、目の輝きから生徒たちの言葉にしがたい心の高ぶりを感じることができました。また、生徒の案を実現へとつなげる行政との連携も生徒たちの夢を大きくさせたと思います。生徒と行政がつながり、つくった夢が未来で実現することを楽しみにしています。ありがとうございました。





# 第66回全道造形教育研究大会札幌大会

## 大会テーマ：“すき”が輝き、響き合う造形活動



子どもの力を信じ！

子どもを支え！



子どもの思いを尊重する!!

かかわり合いから子どもの育ちを！

- ☆人（友達・教師）
- ・物（物的環境）
- ・場（空間的条件）
- ・時（時間的条件）

子どもの「こうしたい!」「ああしたい!」を支える

☆思考（思い考え、表す・とらえる）

- ・ワクワク（嗜好）
- ・試し（試行）
- ・目的意識（志向）



□開催期日 平成28年(2016年)7月28日(木)～29日(金)

□会場 札幌市立新陵東小学校

〒006-0805 札幌市手稲区新発寒5条4丁目2番1号

□日程

### 【1日目】

8:30	9:00	9:30	11:15	12:30	13:30	13:40	14:30	16:30	18:30	
受付	開会式	授業公開 (小・中)	分科会	昼食	説明	授業公開 (小)	研究協議	講評	移動	レセプション
						授業公開 (中)				

### 【2日目】

9:00	10:00	12:00
ネット ワーク会議	チーム北海道 題材屋台村	閉 会

○連絡先 札幌大会 事務局 事務局長 加藤 雅子  
 札幌市立栄東小学校 〒007-0846 札幌市東区北46条東13丁目1-1  
 Tel 011-753-2670 Fax 011-751-0269

# オホーツク造形教育連盟の活動紹介

北見市立南中学校教頭 小野寺哲浩

オホーツク造形教育連盟は、昭和42年発足、研究主題「個・創・喜・感 ～一人ひとりが創造的な喜びを実感するために～」のもとに、毎年管内研究大会と実技研修会を開催し、現在は約30名の会員によってオホーツク管内全体の造形教育の活動の普及を目指して活動しています。

本連盟は「造形について、授業づくりを学び、会員もアートを楽しむ！」が伝統です。平成26年度は、宿泊実技研修会を企画しましたが、あまりの参加者の少なさに中止となったりしましたが、旭川大会の「造形まつりin全道造形」のワークショップでは「オホーツク発 世界で1つ！手作りMY絵本SHOP！！」をテーマにブース出店し、たくさんの皆様に授業で活かせる絵本作りの楽しさを体験していただきました。また、実技研修会では北海道造形教育連盟研究部長の湯浅大吾先生を講師にアートカードを活用した「誰でも実践できる鑑賞活動について」研修しました。

平成27年度は斜里町立斜里中学校工藤龍二教諭を授業者に工芸（木彫「箸づくり」日本の美意識）について研究授業を行い、工藤先生のこれまでの実践を基調に熱心な研究討議を行っております。さらに、研究協議後の北海道教育美術展奨励賞作品鑑賞会を行い、北海道造形教育連盟より昨年度の奨励賞作品を借用し、疑似審査を行いました。より豊かな造形教育を実現させる鑑賞の視点や創造性のある指導のポイントを研修する絶好の機会となりました。

日頃より、北海道造形教育連盟をはじめ多くの関係機関にお世話になっております。今後においても造形を愛する皆様との交流を拡大させ、ネットワークづくりを含めたオホーツクの造形教育の発展に寄与すべく本連盟の研究テーマを深化させていきたいと考えております。



# 石狩造形教育連盟

石狩市立緑苑台小学校 千葉 道子

石狩造形教育連盟は、石狩管内教育研究会（石教研）図工美術部会とともに活動しながら、全道との橋渡し役としての役目を担っています。

10月16日には石教研図工美術部会の研究協議会が行われました。午前中は研究授業と事後研が行われました。小学校2年生がビルダーカードを使った造形遊び、小学校6年生が版画、中学校2年生ではトランプの14をデザインする授業が公開され、充実した研究討議となりました。また、午後からは管内の市町村から持ち寄った実践アトラクションと作品交流が開催され盛り上がりました。

この日の全体会では、石造連会長の池田元治校長先生より石狩造形教育連盟の役割や活動について紹介されました。広報活動も積極的に行い、一緒に活動する仲間の輪がより一層広がっていくことを願っています。



## あ と が き

空からの雪の贈り物も届き初め、北海道らしいいっばいの季節がスタートしました。「雪」の大変さを乗り越えた上での『楽しみ』がそこにはあります。子どもの活動も同じでしょう。単なる楽しさではなく本当の『楽しさ』『すばらしさ』を1つでも多く発見させていくためには、いろいろな角度からのハードル…題材やかかわり、美的センス等々…を乗り越えさせていくことが必要かと思えます。函館・渡島大会では、幼・小・中の授業実践を通して、多くを学ぶことができました。開催地の皆さんはもちろんのこと、遠くから足を運んでいただいた皆様方に厚く感謝申し上げます。また次年度へと図工・美術の絆をつなげていけることを願っております。

最後に、連盟報発行にあたり、原稿執筆などにご協力いただいた方に感謝申し上げます。

<北海道造形教育連盟 広報部> 小林 知 広・松 本 和 彦・櫻 田 悟